

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり1.17人と、例年同時期と比べて多くなっています。今年は、例年と比べて早い時期から報告数が増加しており、今後の動向に注意が必要です。

2. 腸管出血性大腸菌感染症

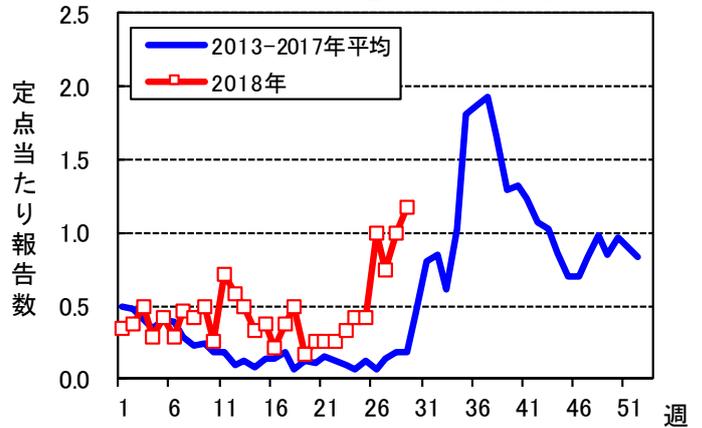
2件の報告があり、今年の累計は3件となりました。例年、気温が高い時期に報告数が増える傾向があるため、注意が必要です。

手洗いの励行、食品の十分な加熱など感染予防対策を徹底しましょう。

3. 梅毒

今年の累計は66件となり、すでに昨年の年間報告数(62件)を超え、過去最多となっています。

RSウイルス感染症の発生状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.02		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.79	
小児科	咽頭結膜熱	17	0.71	0.90	⇒	小児科	RSウイルス感染症	28	1.17	0.18	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	2.29	1.78	⇒	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.10	
	感染性胃腸炎	101	4.21	4.24	⇒	眼科	流行性角結膜炎	9	1.13	1.08	
	水痘	7	0.29	0.51		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	72	3.00	5.08	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
	伝染性紅斑	-	-	0.18			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.26	
	突発性発しん	3	0.13	0.38			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
		ヘルパンギーナ	31	1.29	2.34	⇒	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇄		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	77	男性(20歳代)・1人、男性(30歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	男性(10歳未満)・O121・市外、女性(10歳未満)・O26
4	レジオネラ症	4	23	男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・市外・1人、女性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人
5	梅毒	4	66	女性(20歳代)・2人、女性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人
5	百日咳	4	26	男性(10歳未満)・1人、男性(10歳代)・2人、女性(20歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎	
			第25週	-	12	83	115	9	48	-	9	30	5	10	-	9	-	-	-	-	-
第26週	-	13	60	139	7	89	1	6	33	3	24	6	5	-	-	-	-	-	-	-	
第27週	-	17	61	81	7	93	2	7	43	6	18	-	12	-	-	-	-	-	-	-	
第28週	-	18	52	82	5	76	-	9	26	5	24	-	8	-	-	-	-	-	-	-	
第29週	-	17	55	101	7	72	-	3	31	1	28	-	9	-	-	-	-	1	-	-	
定点当たり	広島市	第25週	-	0.50	3.46	4.79	0.38	2.00	-	0.38	1.25	0.21	0.42	-	1.13	-	-	-	-	-	-
		第26週	-	0.54	2.50	5.79	0.29	3.71	0.04	0.25	1.38	0.13	1.00	0.75	0.63	-	0.04	0.25	1.38	0.13	1.00
		第27週	-	0.71	2.54	3.38	0.29	3.88	0.08	0.29	1.79	0.25	0.75	-	1.50	-	-	-	-	-	-
		第28週	-	0.75	2.17	3.42	0.21	3.17	-	0.38	1.08	0.21	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-	-
		第29週	-	0.71	2.29	4.21	0.29	3.00	-	0.13	1.29	0.04	1.17	-	1.13	-	-	-	0.14	-	-
全国	第27週	0.09	0.64	2.31	5.00	0.39	1.69	0.33	0.55	1.47	0.20	0.46	0.02	0.93	0.01	0.02	0.22	0.01	0.02		
	第28週	0.07	0.68	2.22	4.71	0.27	2.09	0.34	0.55	2.42	0.20	0.70	0.02	0.92	0.03	0.05	0.16	-	0.01		

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(40.0) 咽頭炎 気管支炎 下痢	0	男	2018/06/10	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス5型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 気管支炎	0	男	2018/06/03	鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	気管支炎	2	男	2018/06/10	鼻汁	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(40.0) リンパ節腫脹	3	女	2018/06/08	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★破傷風等の感染症予防について

平成30年7月に発生した豪雨災害の被災地で作業される場合は、熱中症とともに、破傷風やレジオネラ症など感染症の予防対策が必要です。

破傷風は、破傷風菌が傷口に入り込んで感染・増殖し、産生する毒素により、さまざまな神経症状を引き起こす感染症です。3～21日の潜伏期間の後、口が開きにくい、飲み込みにくい、けいれんといった症状に始まり、進行すると呼吸困難などをきたすこともあります。破傷風菌は土の中に広く存在するため、がれきや土砂の撤去作業を行う際は、けがをしないよう、素肌を露出しない服装(長袖、長ズボン)で、丈夫な手袋、長靴、安全靴などを着用しましょう。けがをした場合は、傷口を流水で洗浄し、傷が深い場合や棘などが残ってしまった、傷口が化膿した、破傷風を疑う症状がみられた場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌を含むエアロゾルや粉塵を吸入することによって感染し、肺炎などを引き起こす感染症です。予防のため、作業の際は、マスクを着用しましょう。

【参考】

- 「屋外で災害復旧作業をされる方へ 災害ボランティア活動に参加される方へ」(健康推進課)

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1532223663790/index.html>

家屋の衛生対策等については、広島市のホームページからご確認ください。

- 「水害時の衛生対策と消毒方法について」

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1279109687058/index.html>

- 「家屋の消毒方法に関する衛生相談について」

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1531282279582/index.html>

【問い合わせ先】 健康福祉局 健康推進課 保健予防係 (電話:082-504-2622)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第29週(7月16日～7月22日)